

旧人と新人の進化と気候変動の関連性の分析 The Climatic effect on the distribution of Neanderthal and Modern Humans

米田 穰^{1*}, 横山 祐典², 川幡 穂高², 阿部 彩子², 小口 高³

YONEDA, Minoru^{1*}, YOKOYAMA, Yusuke², KAWAHATA, hodaka², ABE-OUCHI, Ayako², OGUCHI, Takashi³

¹ 東京大学総合研究博物館, ² 東京大学大気海洋研究所, ³ 東京大学空間情報科学研究センター

¹The University Museum, the University of Tokyo, ²AORI, the University of Tokyo, ³CSIS, the University of Tokyo

寒冷化が進行するおよそ3万年前に絶滅したネアンデルタール人に対して、同所的に分布したにもかかわらず絶滅を逃れ、その後さらに北方へと拡散することができた現生人類の間では、どのような違いによって環境に対する適応能力の違いが発生したのだろうか？両者の進化的背景として気候要因は非常に大きく、また適応した環境や生態学的ニッチの違いなどについても指摘されている。しかし、ネアンデルタール人と初期現生人類の分布範囲とそれに対応する古気候・古環境の情報はまだまだ限られている。その問題に迫るために文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究」(平成22~26年度)が現在おこなわれている。考古学や人類学で得られた両者の分布と文化の情報をデータベース化し、気候シミュレーションによって得られた地図上に展開すること、そしてネアンデルタール人と初期現生人類が別々に進化していたヨーロッパとアフリカにおける気候変動の差異を検討している。本発表ではこれまでに得られた各研究者の成果をもちより、研究の現状と問題点について報告する。

キーワード: 酸素同位体ステージ3, ネアンデルタール人, 現生人類, 人類進化, 古気候, 古環境

Keywords: MIS 3, Neanderthal, Homo sapiens, human evolution, palaeoclimate, palaeoenvironment